

グラフでみる きょうたんご

ご覧いただく際のご参考にしてください。

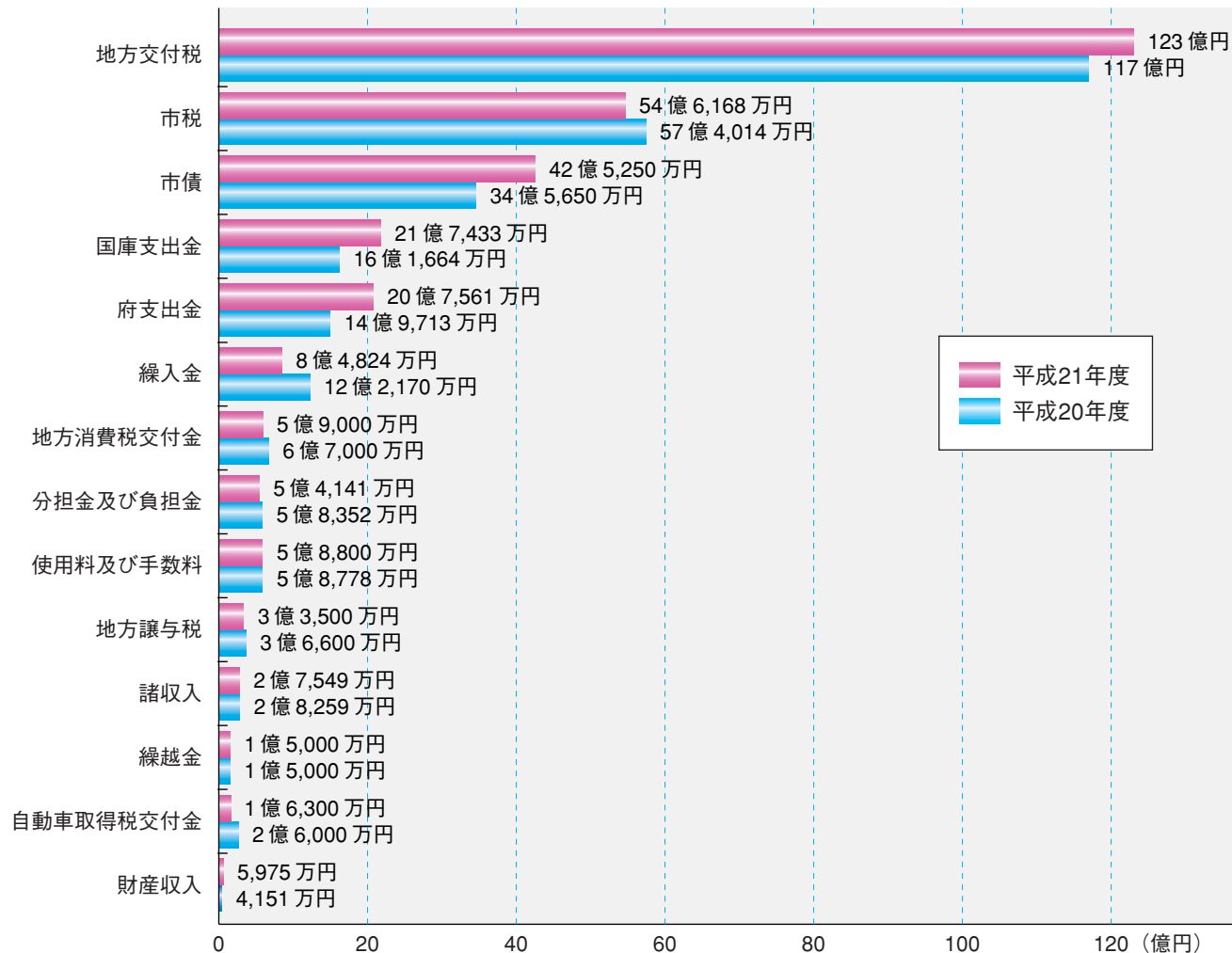
参考

- 市の予算は、「年度」という期間を使っています。
平成20年度とは、平成20年4月1日～平成21年3月31日までをいいます。
平成21年度とは、平成21年4月1日～平成22年3月31日までをいいます。
- 京丹後市の人口 6万2,172人
(平成21年3月31日現在の住民基本台帳による数値です)
市の借金や貯金の1人あたりの金額を計算する基礎に使用しました。

平成21年度の収入の内訳

市の収入で一番金額の多いものは、国から配分される地方交付税の123億円で、市税が54億6,168万円、次いで市債（借金のことで、地方債とも呼ばれます）が42億5,250万円の順となっています。

主な収入比較

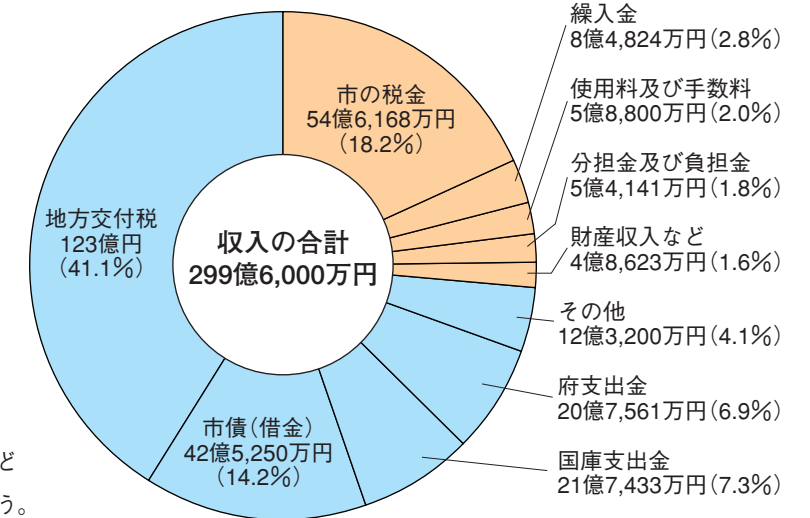


財政基盤の安定や市民のニーズに応じた自主性のある行政サービスを提供するためには、一般的に自主財源の割合が高いほど望ましいと考えられています。
市の収入総額299億6,000万円に占める割合は、自主財源が79億2,556万円（26.4%）、依存財源が220億3,444万円（73.6%）となっています。国や府からもらえるお金や借金に頼った収入構造といえます。

収入の構造

自主財源 26.4%
依存財源 73.6%

- 自主財源…市が自ら収入することができるお金。
市税や施設の使用料や窓口の手数料など
- 依存財源…国や府から交付されるお金や借金をいう。
地方交付税や補助金、市債など

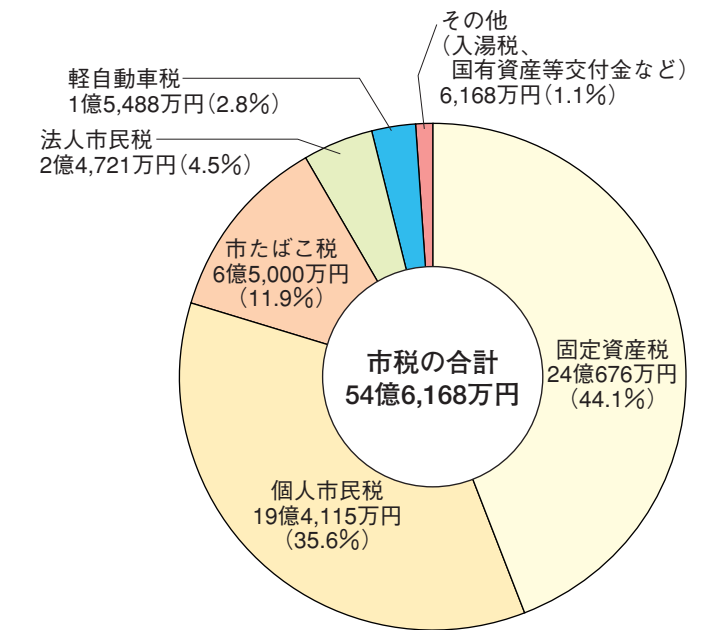


市税の状況

〈市税の内訳〉

京丹後市の市税は、大きくは市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、鉱産税、入湯税の6種類に分けることができます。

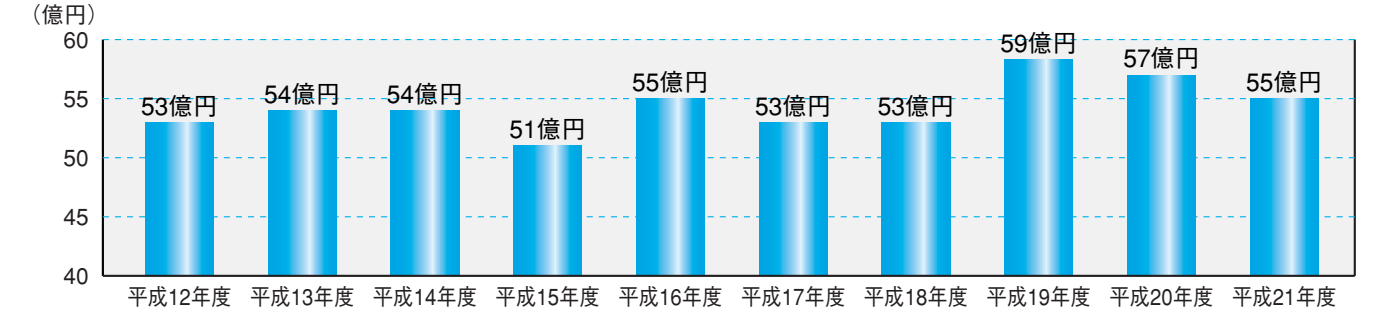
市税の内訳をみると、固定資産税が24億676万円で市税の約4割を占めており、次いで個人市民税が19億4,115万円、市たばこ税が6億5,000万円となっています。



〈市税の推移〉

平成21年度は昨年来の急速な景気後退による法人税の大幅な減収のほか、固定資産税の評価替の年であり、評価の見直しによる減収が見込まれます。

平成19年度の大幅な税収の伸びは税源移譲によるもので、所得税（国税）を減らし個人市民税（地方税）を増やしたことにより、市税は伸びています。しかし、個人市民税としては増えていますが、所得譲与税が廃止されましたので、市全体の収入として大幅に増えたというわけではありません。



(注) 平成19年度以前は決算額、平成20年度および平成21年度は予算計上額です。